

SSKU

冬

2018年度

お元気ですか?  
イリアンソ  
です。



**PAGE 02**      理事長の散歩道

**PAGE 03**      特集「活動の原点を知る」

**PAGE 06**      がんばれ！イリアンソ

**PAGE 07**      活動報告



▲大菩薩峠からみた富士山

わたしは、車で登山口まで行くのですが、登るコースもいくつかあり、去年は奥多摩の先にある丹波山村から登りました。今回は、中央高速の勝沼イン

新しい年を迎えて今年も時間を見つけて山に登って英気を養っていききたいと思っています。昨年は一年間で30回の登山をしました。南アルプス、富士山、八ヶ岳、奥多摩、奥秩父と2011年から続けている登山ですが、まだまだ登りたい山がたくさんあります。

今年の初登山は、1月5日で山梨県にある大菩薩峠にいつてきました。この大菩薩峠は、これまで4回くらい登っています。夏の暑い日、冬の雪が積もっているとき、一年に一回は必ず上っている気に入っている山です。

理事長の散歩道  
社会福祉法人 イリアンソス 理事長  
磯部 光孝



ターチェンジから降り411号を青梅方面に向かい丸川峠分岐駐車場に車を置いて登山開始です。今回は、雪の神秘的な景色を見られたらいいなと思っていたのですが、残念ながら雪はなく冷たい風が吹きさすさぶ登山でした。このコースですと6時間かかり高低差は1000mくらいです。この季節ではあまりこの山に登る方は少ないのですが、それでも5〜6人の登山者に会うことができました。そして、一番の見どころがこの大菩薩峠から見る富士山です。手前の湖も含めてとても爽快な気持ちにさせてくれる景色です。この景色を見たくて何度も登っています。

爽快な気持ちといえば、昨年の12月13日に判決がでた岡山高裁での浅田訴訟控訴審判決はとても勇気づけられました。この裁判は、車いすで生活する重度の障害をもつ浅田さんが65歳になったことで、今まで受けていた障害福祉サービスが受けられなくなったことが発端です。いわゆる「65歳問題」といわれ、全国でさまざまな問題が起きてきています。例えば、のぞみの家や活動センターかなえなどの生活介護を利用されている

方は、介護保険のデイサービスを利用しなさいと、これまでの生活を変えなければならぬということなのです。当法人にも65歳を過ぎた利用者がおられます。彼は今も法人の事業所に通うことができていますが、自治体によって、浅田さんのように介護保険に移行することを強要する自治体があると聞いています。実際、いくつかの地域で裁判が行われています。この裁判でも浅田さんの主張が通らなければ、私たちの利用者にも影響するのではないかと心配し注目しておりました。

結論としては、岡山市の主張する介護保険優先原則を退け、浅田さんは65歳になっても障害福祉サービスを利用する権利があるとの判断でした。浅田さんは「裁判長からの判決を聞いて、65歳以上になってもこれまでと変わらずに僕の人間として生きる権利と65歳に関係なく、平等な介護が保障され、僕の尊厳が回復してとてもうれしかったです。」と率直な気持ちを伝えてくれました。

「ひと」は法律で生き方を制限されてはいけません。法律は「ひと」が安心して生きていくためのルールだとわたしは考えます。

## 活動の原点を

### 知る



1973年：通所幼児訓練施設として開所した当法人。今日に至るまでには当然、携わる多くの方々の努力や運動の結果があります。

法人としても20年が経過して、制度も大きく変わり、社会福祉や障害のあり方も大きく変わってきたかと思えます。その中で、変わらないもの、変えてはいけないものも多くあります。今回の特集記事では、日中活動に焦点をあてながら、活動の始まり、いわば「原点」を探っていききたいと思いません。

当時から職員も変わり、全てを網羅はできませんが、当時を想うことで改めて、守っていかねばいけないことや変革していかねばいけないことが見えてくるのではないのでしょうか。

## 活

活動センターかなえには現在3つの班があります。その中で、だるま班が行っている和紙づくりの原点を探っていききたいと思えます。

かなえが開所した当初は少女漫画の付録やダイレクトメールの袋詰めの仕事をしていて、納品に間に合わせるため、忙しい毎日でした。

しかし、その仕事もやがて海外に委託されるなどで無くなり、危機に陥ってしまいました。

そこで他にできる仕事はないかと探したところ、「のぞみの家」で和紙づくりをしているということを知り、当時の職員が、「のぞみの家」や町田市にある「赤い屋根」などに見学に行きました。



た。和紙づくりなら、かなえでもできそうだといいことで、和紙づくりの道具であるアクリルケースや、紙漉きセットを用意して取り組むことになりました。

最初は上手に作れず和紙がボロボロになってしまいましたが、みんな楽しみながら取り組んでいたそうです。

現在では和紙も上手に作れるようになり、個別に注文がきたり、年に一度ある販売会では和紙はがきは主力製品となつていきます。

## な

かまの家は30年前に学校卒業後の行き場として保護者の方や地域の方が立ち上げ運営してきました。そして10年程前に法人に運営が引き継がれ現在に至ります。活動内容も時代と共に変化していますが、今回はその中の《さきおり》についてお伝えします。

《さきおり》とは布を細長く裂き縦糸が張つてある台に通し布状のものをつ

くつていきます。最終的には足拭きマットやバックなどの製品に仕上げ販売を目指しています。さきおりの台は1台1台手作りで修繕しながら現在も使用しています。じっと座って黙々と作業する人、さきおりの台がある机まで行ったりきたりしながら作業する人、横布をダイナミックに通しすぎて布が絡まってしまった人・・・取組んでいる姿は様々ですが、長年取組んでいるだけあって見通しを持ってしっかりと取組んでいます。

製品の厚みが出すぎるため横布の幅を細めにしたたり、縦糸を以前はタコ糸を使用していました。が製品化したときに見栄えがいいように色のついた糸を使用したりと工夫してきました。しか



し製品化にしていくことはなかなか難しくまだまだ改善や見直しが必要です。さきおりから離れ「刺しゅう」などにもチャレンジしています。しかし人によつては分かりづらさもあるため、現在新たに木枠をちいさなさきおり台に見立て、縦糸・横布は縫製しやすい材料にし取り組み始めています。

少しずつ変化しながら長年積み重ねてきて「さきおり」の活動を大切にし、販売に繋がる製品をみんなと一緒に試行錯誤しながらつくっています。

## の

ぞみの家は『元気なたんぼぼ班』  
『チャレンジドリームズ班』  
『おひさま班』の3班で活動しています。

21年前の1997年に現在の建物でスタートしましたが、その頃は、班やメンバーも固定されておらず、ぼかし肥作り、和紙、パック回収、ミシンなどの作業を出来る人で行っていました。その中の牛乳パック回収のメンバーが現在の『たんぼぼ班』です。

最初は牛乳パックの量が多かった為、車で出掛けていましたが、「車だと、地域の方々との接点が無い」「歩けるメンバーなのだから、歩くことを大事にしたい」というスタッフの想いから、歩いて行ける回収場所を開拓し、ワゴンに手作り看板を引っ提げて、自分達の存在をアピールしながら出掛けるようになりました。

回収場所までの道でガソリンスタンドの店員さんと挨拶を交わすようになり、募金箱を置いてもらったり、柿農家の方に柿を売ってもらったりと、地域の方との嬉しいつながりも増えました。

道中では、「全員で行こうね!」と声を掛け合いながら、仲間のペースに合わせ、目的地まで向かいます。ゆっくりペースのNさんが先に歩いて、更にゆっくりペースのNさんを振り返りながら待っていてくれ、合流するとそつと手を繋ぎ、二人で一緒に歩き出す・・・そんな微笑ましい姿もありました。

仕事(多少の厳しさやけじめ、がんばること)も大切だけどそれだけではなく、仲間を意識したり、一人ひとりの思いや考えていることを丁寧にくみ取ることを大切にしたい。

「毎日、利用者が自分達で出来ることは何か?何を大切にしていきたいか?を模索しながら、話し合いを積み重ねていきました。

ただ、今よりかなり少人数だった為、ゆっくりとした時間の流れの中で個々のペースに合わせて活動が出来て、ちよつとした気持ちの変化や表情に気づきやすい環境だった」と当時を知るスタッフは振り返ります。

先日、21年間、牛乳パック回収で通い続けたスーパーヤマザキが閉店となりました。

当たり前のように通っていた場所が無くなってしまう、寂しくもあり、沢山の思い出が風景と共に甦ります。

活動の原点とは、「地域とのつながり」「仲間意識」「利用者の思いや可能性を

丁寧にくみ取る」こと。時代が変わっても、変わらない思いを大切に育てながら、脈々と受け継いでいきたいと思えます。



このみでは遊ぶということを大切にしています。学校では勉強をすることでこのみに来たら思いっきり遊ぶということをしています。

他の学校の子どもたちと遊んだりすることを大切にしています。他校の子どもたちと交流することで様々な関係性や社会的なルールを学ぶことが出ていきます。

また、遊びの中から見つかる子どもたちの関係や自分たちで考えて行う様々な遊びが見つかります。最初は子どもたちがどのように遊んでいいかわからなかったようですが大人たちのアドバイスを聞くと元気に遊ぶことが出来たそうです。

今では、子どもたち自身が遊びを考えて大人に伝えてやっている遊びも多々あります。そうやって子どもたちがたくさんの遊びを残しています。



## がんばれ！イリアンソス

### 鈴木実穂さん（ボランティア）

#### 「私が心から思うこと」

今回は、のぞみの家にピアノのボランティアで来ていただいている鈴木実穂さんです。パワフルな演奏と歌声で毎回、大盛り上がりです。「私が心から思うこと」として、ご自身の経験を基に、お話頂きました。

▼私はとにかく生き物が好き！子供の頃から、虫から何から大好きでした。子供の頃から、家に動物が居なくなったことが無く、実家を出てしばらくは、単身アパート暮らしで切れましたが、結婚してからやはり動物たちと暮らす生活が始まります。▼やがて、売られていた動物たちの親のことを知りました。そこには、残酷な繁殖の現実がありました。産めるだけ産ませて、産めなくなったら捨てる…或いは、殺してしまう…産まれてから一度もケージの外に出されることなく、病気になるっても手当てや治療もされずに産めなくなったら死んでいく…それが、ペットビジネスの裏側です。▼それから、我が家では、遺棄されたり放棄されたりした様々な種類の

保護動物を引き取るようになります。現在の我が家の動物家族は、“犬×5・猫×3・ウサギ×1・蛇×1”です。

さて、そこからまた数年経ち、今度は、人間の弱者の方たちの現実を知る時期がきました。最初は、心の病を抱えた知人の女の子がきっかけでした。両親からの虐待を受けており、その子は現在、親とは離れて暮らしていますが、PTSDに今も苦しんで、今でも、彼女は毎日、自分の心と闘っています。そんな子と関わっているうちに、福祉全体に関心が出てきました。▼そして、気付いたのです…動物の福祉と人間の福祉は、切り離せないものだ。この地球上で、動物は弱者です。人間が地球を支配している以上、弱者です。つまり、人間が何らかの保護をしてあげなければ生きていけません。それは、アフリカや大海の野生動物も同じです。人間が汚して壊して今の地球があり、金銭で生活が成り立つ社会になっっている以上、お金になる密猟は、なかなか無くなりません。▼では、究極、どこが変われば穏やかな地球になれるのか…それは、密猟者でもなく、乱獲している漁業

関係者でもなく、ペットショップ経営者でもない…それは、我々一人一人、普通の市民が変わること。つまり、人が変わらなきゃ、動物も人も救えないのです。▼これまでやってきた高齢者施設でのボランティアに加え、昨年より『のぞみの家』様でボランティアをさせて頂くことになり、障害によって気持ちの表現が難しい方々と接する機会を作ってもらえることになりました。▼言葉でいえば、通じる世界しか見てこなかった自分が体験する、心で接するという感覚…。とても新鮮ですし、とても大切な経験をさせて頂いているなど、スタッフの皆さん、そして、利用者

の皆さんに感謝です！  
▼人と人が繋が  
り、人と動物が  
つながり、人と  
自然とも繋がっ  
ていく…そんな  
地球人でありたい  
と思っ  
ていま





式典終了後には全員で記念写真

顔あふれる一日でした。

2018年10月15日に毎年恒例、法人の祝う会を西東京市の「こもれびホール」でおこないました。今年、(入所・かなえの松尾さん)(成人・かなえの満園さん・伊藤さん)(還暦・のぞみの家の牛久さん)でした。午前中は式典をおこない、仲間からお祝いの言葉を掛けてもらい、皆さん嬉しい、皆さん嬉しそうでした。昼食もごちそうが並び、大満足。来賓の方々もたくさん来ていただきました。笑顔あふれる一日

## 入所・成人・還暦を祝う会

## 生活寮の窓

年末、恒例のクリスマス企画。それぞれの寮ごとにオリジナリティ溢れる時間となりました。ご家族から手作り料理やケーキを差し入れてもらったり、自分たちでデコレーションしたり、やっぱり、美味しいものには、瞳も心も釘づけでした。ご家族も足を運んでいただき、あたたかな一夜となりました。



## 放デイの窓

少し前になりますが、2018年10月31日に市内の事業所が集まりハロウィンパレードを行いました。前日まで衣装作りなどをしていました。

当日は駅前のロータリーを歩いて元気な声で「トリック・オア・トリート」と言って市役所まで歩きました。パレード後には、各事業所の仮装発表、表彰がありました。楽しいハロウィンとなりました。



## Cafeとん

寒い日が続いています。あたたかいカプチーノでも心も暖まりませんか？  
ふわふわの口当たりのよいミルクと薫り高いエスプレッソ(煎士によるCafeてんオリジナルブレンド豆を使用しています)が特徴のカプチーノです。一緒にのぞみの家の手作りケーキ(かぼちゃのシフォンケーキ・ガトーショコラ)とセットで食べる。とほっと一息、ゆったりとした時間を過ごせます。お店でお待ちしています。



ご寄付をいただきました (1月末まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。  
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

藤田祐子様 神戸弘子様

ありがとうございます。

## 社会福祉法人イリアンソス

### ●のぞみの家

東久留米市下里 2-7-18  
042-473-9027  
042-473-9036 (F)  
[nozomi@iriansos.or.jp](mailto:nozomi@iriansos.or.jp)

### ●活動センターかなえ

東久留米市南沢 2-20-51  
042-452-6405  
042-452-6415 (F)  
[kanae@iriansos.or.jp](mailto:kanae@iriansos.or.jp)

### ●なかまの家

東久留米市中央町 2-1-47  
042-472-7130  
042-444-3722 (F)  
[nakama@iriansos.or.jp](mailto:nakama@iriansos.or.jp)

### ●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里 4-2-7  
042-476-3400 (F 兼)  
[sora@iriansos.or.jp](mailto:sora@iriansos.or.jp)

### ●生活寮「にじ」「かぜ」

東久留米市下里 5-10-10  
042-420-9943  
[kaze@iriansos.or.jp](mailto:kaze@iriansos.or.jp)

### ●このみ

東久留米市幸町 3-8-23  
042-473-9667

### ～職員のつぶやき～

先日、長野にある入笠山へ。一泊した山荘では、地元産の食材を使った手製の料理が盛りだくさん。夜は天気良く、満点の星空。山頂からは、360度、見渡す限りの山々が。もっとガッツリ！山旅を味わいたいけれど、今の仕事分の体力も残しておかなきゃ…と、どっぷりと楽しめない自分にガッカリ(苦笑)

斉藤加奈子

### 《発行》

特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17  
ヴェルドゥーラ祖師谷 102号室  
Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555

### 《企画、編集》

社会福祉法人 イリアンソス

〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18  
Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036

### 《編集委員会》

磯部光孝・多田由美・吉田遊佑・福田恵  
中西亮太・疋田史江・斉藤加奈子  
ホームページからはカラーでご覧いただけます。

イリアンソス



検索

定価100円

### 表紙の写真

無認可時代の写真です。昔があるから今があり、今があるから昔を語れるのでしょうか…。